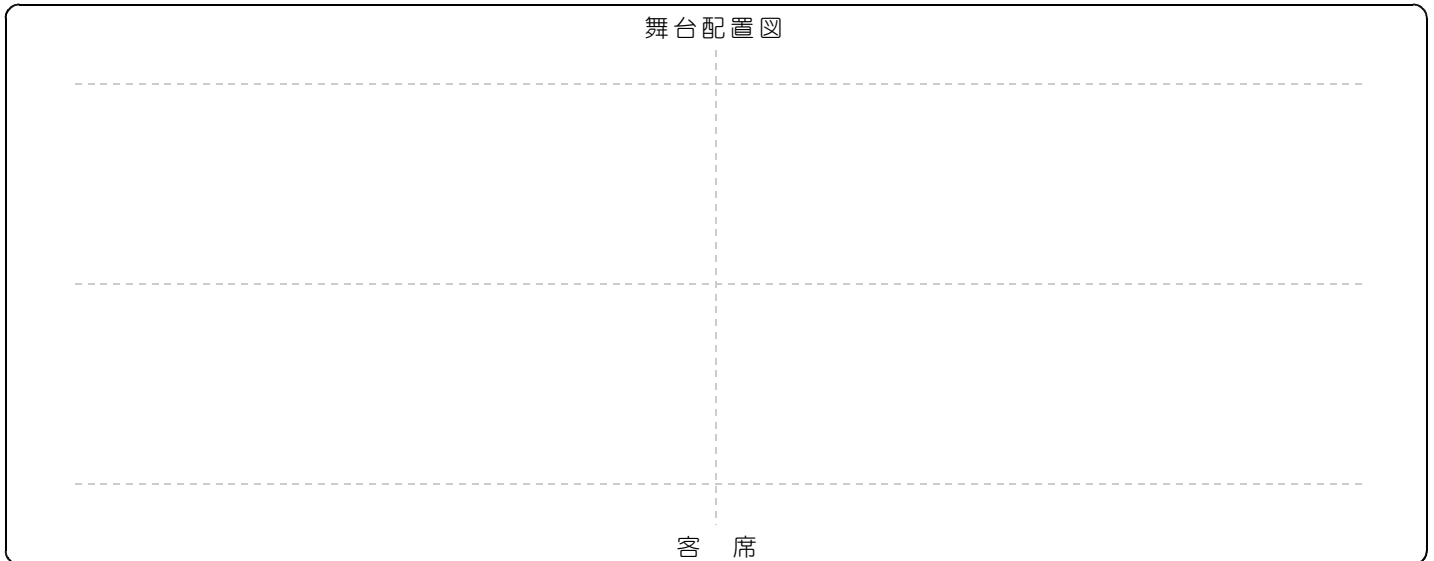


No.	濫	演奏者数	演奏時間
-----	----------	------	------



表示記号一覧	- 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44	編成： 三絃独奏
三絃	D G D	本調子

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

RAN

- 作曲年 1986年
- 委嘱者 本條秀太郎
- 構成 三絃独奏
- 時間 10分
- 出版楽譜 無し
- 解説 私は本来演奏家だから、作品を書くとしても“手”が多くなってしまいう傾向がある。勿論演奏家としては演奏の場で一音、一音とのめり込んでその音の持つ力と深いもの言いを紡ぐことには例えようのない精神的な喜びを覚えたりするのが、一方楽器を可能な限り鳴らしたい欲望も常に私の中にあって、それが時々頭を出したがる。この曲はその潜在的な欲望を楽器の機能に甘えながら綴ったもので、題名の“濫”は音の汨濫を意味する。1986年3月作曲。 [作曲者]